

第5回 旭川市民文化会館整備基本構想検討会 会議録（要旨）

会議名	第5回 旭川市民文化会館整備基本構想検討会
開催日	令和5年10月30日（月） 午後1時30分から午後3時00分まで
開催場所	旭川市民文化会館 第2会議室（旭川市民文化会館 2階）
出席者 （敬称略）	参加者 全12名のうち11名出席 五十嵐 真幸，上田 信津子，大口 優，大谷 薫， 佐藤 淳一，鈴川 雄太，西川 祐司，松倉 敏郎， 南 裕一，宮田 健一，森 傑 事務局 3人出席 文化ホール担当課長，市民文化会館主査（2人） 事務局支援 8名 北海道大学大学院建築計画学研究室
会議の公開非公開の別	公開
傍聴者数	1名
会議資料	別紙のとおり

- 1 開会
- 2 由利本庄市文化交流館カダールに対する質問事項への回答

事務局：

- ・ 前々回の会議において、先行事例として由利本庄市文化交流館カダールを紹介した。
- ・ 当該施設は大ホールの1階席を全て床下に格納し平土間にできるなど、可変型多機能ホールであることが大きな特徴であるが、会議において「具体的にどのように使用されているのか知りたい」という質問があり、施設側に質問したところ、回答が得られたことから報告する。

- ・ 大ホールを劇場形式（1階席を設置した通常の状態）で利用する場合は、各種発表会や式典など、オーソドックスな使用内容である。
- ・ 大ホールを平土間形式で利用する場合は、飲食を伴う式典や商業フェアなどで、年に2、3回程度の利用がある。
- ・ 大ホールを平土間形式とし、市民活動室やギャラリー、さらに外部空間とも連続して一体的に利用する「スーパーボックス仕様」と呼ばれる形での利用は、チャレンジデー（健康増進イベント）やマルシェ等、年1回程度の使用実績がある。これらは広く市民が施設を訪れる催事であり、カダーレの最も特徴的な運用方法により開催することで、市民が文化ホールに気軽に訪れ、関心を持つきっかけとなっている。
- ・ 大ホールの楽屋は、会議室としても利用可能としている。

3 前回の振り返り

事務局：

- ・ 前回はコンセプトについて、2つのグループに分かれてもらい議論した。
(グループA)
- ・ 以下3点の意見で大きくまとめられた。
 - ① 文化芸術だけのための施設ではなく、まちづくりに貢献する施設であるべき
 - ② 旭川家具など地域の特色を生かした施設とするべき
 - ③ 場所に応じて周辺の施設やホテル等と連携した運営を考えるべき
- ・ 全体としては、「旭川市全体のまちづくりに貢献する施設」そして「旭川らしい体験ができることで、市民の交流や文化芸術を育む施設」が良いという意見にまとまった。

(グループB)

- ・ 以下3点の意見で大きくまとめられた。
 - ① デザイン都市のシンボルとして、アイデンティティを持った施設とするべき
 - ② 高いホール性能の実現により、レベルの高いアーティストを呼ぶだけにとどまらず、鑑賞から市民の活動意欲を呼び起こし、育てていくような場とするべき
 - ③ 多くの人が訪れることができ、ついで利用等につながる場所に建設するべき
- ・ 全体としては、「人が集う夢と感動がある空間～響きあう文化芸術～」というフレーズにまとまった。

(総括)

- ・ 本日の資料として、前回のグループディスカッションの結果を踏まえ更新したキーワードマップを配付している。
- ・ 新たに出てきたキーワードはなく、それぞれのキーワードについてより具体的な意見が追加されており、生産的な議論ができたものと考えている。

- ・ 一方で、前回のディスカッションでは「ライブラリー・ギャラリー」「屋内型パブリックスペース」「余白空間」といった空間的なキーワードにはあまり議論が及ばなかったことから、今回はこれらの空間に関するキーワードについて、模型を使いながら、より具体的に議論していきたい。

4 グループディスカッション

進行役：

- ・ 今回はホールに必要な機能，その機能同士の配置と相互関係について検討する。
- ・ 敷地について意識する必要はないが，立体的な考えやイメージも出していただきたい。
- ・ 今回の議論を通して，皆さんが関心のある点や，大事にしたい考えを探っていきたい。
- ・ この議論をもって施設の構造を決定しようというものではないので，通例的なホールの作り方や間取り等を考える必要はなく，機能の配置や規模，相互関係について検討することが大切である。

(グループディスカッション)

- ・ 第4回で検討したコンセプトにつながるキーワードをベースとして，ホールの機能や規模，機能同士の相互関係について検討。
- ・ 当日出席のあった参加者11名について，グループA 5名，グループB 5名（進行役は加わらない）に分かれ，模型を使って位置関係をイメージしながら議論。
- ・ 各グループには，事務局支援として会議に参加している北海道大学大学院建築計画学研究室から，それぞれ1名がファシリテーターとして参加した。
- ・ 約1時間のグループディスカッション終了後，各グループでの検討内容を参加者全員で共有した。

グループA：

- ・ 1階の大ホールを起点として，大ホールの前にどのような機能があると良いかというところから考え始めた。
- ・ 大ホール前にフリースペースを大きく設けることで，エントランスから入るとすぐに施設全体を視認することができ，各機能へアクセスしやすく，どこで何が行われているのか分かりやすい構成を重視したいという意見が多かった。
- ・ 大ホールは音響性能や遮音性能を確保できるようにしたいが，ギャラリーや中ホールはフリースペースと一体的な構成とし，イベント等に対応できるような空間としたい（特にギャラリーはコンベンション時に企業展示等にも利用できるもので，現施設のような半地下ではなく，視認性の高い1階に配置したい）という意見があった。

- ・ちょっとした打合せや子供たちの活動等に際してのついで利用のほか、コンベンション時の懇親会やケータリングの準備にも使用できることが想定されるので、カフェや飲食スペースを設置してほしいという意見があった。
- ・詰所や控室のような機能をギャラリーやホールの横に設け、特定の団体が一定期間占有して展示物や荷物を保管できるようにしてほしいという意見もあった。
- ・会議室に関しては、明確な目的があって利用する場所なので2階に配置しても良いが、1階にも広めの会議室が1部屋あると、ギャラリーなどと機能連携がしやすいのではないかという意見があった。
- ・リハーサル室は、最低でも大ホール舞台と同面積で、しっかりとしたリハーサルが可能な部屋とし、多目的な使い方ができる部屋もほしいという意見があった。
- ・フリースペースを屋外と一体的に活用できるようにすることを考えると、大ホールの搬入口とは別に、フリースペースに直接搬入できるような搬入口をもう一つ設けることも考えられるのではないかという意見もあった。
- ・大ホールとそれ以外の機能は必ずしも連携が必要ではなく、大ホールは2階に設置しても良いのではないか、という意見もあった。

グループB：

- ・エントランスを起点に、隣接する機能は何が望ましいかというところから考え始めた。
- ・エントランスを吹き抜けにすることで、諸室を一望し、アクセスできる構成とした。
- ・エントランスは移動経路であるとともに、滞在可能な空間として機能するよう中庭を配置し、また図書スペース等の設置によってエントランスの大きなスペースを区切るなど、楽しく移動・滞在できる空間にしたいという意見があり、またそれが上階にも続く形で展開することで、立体的に楽しめると良いという意見があった。
- ・大ホールや小ホール、会議室はエントランスから見て吹き抜けの奥に配置している。
- ・1階の会議室は吹き抜け空間に対してガラス張りで活動が見えるオープンなタイプ、2階の会議室はしっかりと壁で区切ったクローズドなタイプとして設計すれば、様々な利用の仕方に対応できるのではないかという意見があった。
- ・コンベンションについては、ホール周りの会議室と連携した開催を想定しているが、会議室から出た際に談話できるようなフリースペースが隣にあると良いとか、演奏者などが緊張をほぐすために集まって会話できるようなスペースが舞台裏にあると良いといった意見があった。
- ・前回の会議では神楽地域での建設を仮定した意見もあったが、当該地域は洪水ハザードマップにおいて2階まで浸水する可能性があるとの指摘があった。この指摘に対し、3階建てにして3階部分が一時的な避難場所として使えるのではないか、そして展望台も兼ねることができないのではないかという意見があった。

- ・ 文化会館は子供にとって「静かにしなければいけない場所」であると思うが、しっかりとゾーニングをして、遊びまわって良いところとそうでないところを明確にすることができれば、様々な人が訪れることのできる場所になるという意見があった。
- ・ 回廊のところどころにソファや旭川家具、旭川の木彫りを使った壁を配するなど旭川らしさを出すと良いという意見があった。
- ・ 図書館の本を読めたり、美術館で展示していない作品を周期的に入れ替えて展示するなど、図書館や美術館の分館としての機能を持つような文化会館というのも良いのではないかという意見もあった。

5 総括

進行役：

- ・ 非常に短時間の中で、両グループとも素晴らしい形にまとめ上げていただいたと思う。
- ・ 2グループともに共通する柱のような部分もあり、それぞれ独自のアイデアもあった。これらを無理に合体させる必要はなく、皆さんが特に興味を持っていることや大事にしたいことを事務局の方で整理してもらい、次回の検討会ではコンセプトやそのポイントというべき部分の議論を進めていきたい。
- ・ なお、今回議論いただいた内容でそのまま建設した場合、現施設を大幅に超える施設規模になる。この点は今回の議論の前提として気にしないようお願いしていた点であり、設計の仕方により解消できる部分もあるが、次回の会議ではこうした点を踏まえた上で検討できればと思う。

6 閉会